

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500786		
法人名	社会福祉法人 楽晴会		
事業所名	グループホームはるが丘		
所在地	〒033-0071 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字堀切沢59-54		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同敷地内の隣接施設も含め、市に隣接し交通の便に恵まれた場所に立地しているも騒音等はなく、自然に囲まれたのどかな雰囲気の一部に位置し、建物も全体的に木目調の柔らかく優しい雰囲気となっています。共有スペースは広く、木のぬくもりと天窓からのやわらかい日差しがあり、椅子の配置等ひとり一人がゆったりと安心できる場所作りの工夫をしています。職員はご利用者一人ひとりの力を引き出す支援を行い、安心して生活できるようにご利用者の側に寄り添っています。
 ・ご利用者の健康面については法人内の訪問看護ステーションや協力病院、同敷地内の隣接施設の看護師と連携を取り速やかな対応ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた環境にあり、居室や共有空間から季節感を楽しむことができる。併設の老人ホームやデイサービスセンターとの連携が図れており、事業所運営や災害対策、利用者の受け入れ体制等協力関係が築かれている。職員一人一人がお客様に寄り添うケアを重視し、安全で過ごしやすい環境づくりに努めている。また、日々の会話や面会時、満足度調査を通して、利用者や家族からのニーズを把握し、安心した生活が送れるよう取り組んでいる。現在はコロナ禍により活動が自粛されているが、例年は行事の時に近隣の保育園の訪問、避難訓練時は地域協力員の参加等地域との関わりが多く取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		令和 3年 10月 19日		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	管理者	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	7職員	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人楽晴会の理念と当施設の理念を理解し、お客様一人ひとりの想いを尊重し、その心の下りて支え安心できる生活を支援することを心がけ実践している。	お客様に寄り添うケアや共にゆったりと生活が送れることを大切にし、理念についてホールや事務室に掲示するほか、法人の初任者研修で理解することや朝礼時に唱和をすることによっていつでも意識して支援をするように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の委員の方々を通し、交流している。お客様の活動に積極的に参加して頂いている。感染予防対策で活動ができないうことがあり報告書や広報等で機会を設けている。	コロナ禍により従来の地域との関わりが難しいが、近所のコンビニに出かけたり、近隣からのおすそ分けをいただいたり、保育園との交流を行っている。また、町内会長や地域協力員との広報誌等を通じて情報のやりとりを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設と併せ隣近所、地域住民との交流が行われている。またGHの広報などで情報をお客様や家族に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。会議ではGH内の様子や、認知症の方への理解と取り組みを報告し、いろいろなアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。	家族や地域協力員、民生委員、小学校の校長等が推進委員のメンバーになっており、事業所の活動状況を報告するとともに、避難訓練やコロナ禍での面会方法等についての意見を受け、サービスに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の研修会に参加し、介護保険の動向等の情報を得たり、更新手続きの相談をしたりと実情を積極的に伝えている。	市役所の担当者より研修案内や介護保険、新型コロナウイルス関連の情報についてのメールや文書が送られてくるため、研修会に参加したり、空床情報のやりとりや介護保険についての相談を都度行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エリアで3ヶ月に1回身体拘束についての会議を行い、お客様の行動を把握し拘束のないケアを全職員で話し合い研修で理解を深め、ゆったりとした生活を送って頂けるよう取り組んでいる。	敷地内にある同法人の事業所で委員会を設置し、定期的に会議を行い、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。会議での内容は、伝達研修等を通じて職員全員に周知できるようにしている。玄関の施錠は夜間のみ実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	エリア内での虐待防止委員会会議・内部研修で学び理解を深め、虐待防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の対応は管理者が行なっている為、全職員の理解が不足している。定期的に勉強会を開催し、研修の機会を増やすことで、職員の理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、ご利用者やご家族等の不安や疑問を確認しながら、十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体でオンブズマン制度を導入。感染予防対策により、現在、訪問を受けていない。事業所内で満足度調査を実施し、ご利用者・ご家族より意見や要望を頂き、運営に反映させている。	家族が来所した時や電話連絡した際に、利用者の状況を報告するとともに、意見や希望を確認している。また、年2回、利用者や家族に満足度調査を実施し、調査内容は職員間で共有するとともに、法人の会議で取り上げ運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員会議の意見や提案を管理者が代表者に伝える体制ができており、業務改善にも反映されている。	朝礼や月1回の職員会議のほか、普段より意見や提案をしやすい環境づくりに努めており、管理者や施設長、法人本部が共有して検討し、業務改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与制度の改定が実施され、職員の意欲、要望、実績も盛り込まれ、やりがいになっている。職員は向上心を持って働けるよう研修への参加や資格取得ができる機会を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修やエリア研修は、年間計画を立て実施している。外部研修は伝達報告を行い、情報の共有化を図っている。報告書は職員が自由に閲覧できる状態になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の研修会、GH会議に参加し他事業所の方々と情報交換を行っている。また法人内の研究発表会に参加し他の事業所の取り組みや活動を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人に会い、心身の状態や本人の思い・不安な気持ち等を受容して共感的姿勢で接し、安心できるような関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、要望等を傾聴し、家族の精神的な状況も含めて安心して施設入居ができるように時間をかけて説明し、信頼して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等とこれまでの経緯について時間をかけて傾聴し、相談者が落ち着きを取り戻した頃に次の段階へと必要な支援へ繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と支援者という意識を持たず、お互いに協調し、協力できる関係を構築しながら日々穏やかに生活できるような場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、一緒に支える家族と同じ想いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方々や場所との関係が途切れないよう馴染みの美容院等や故郷散策の機会を設けている。感染予防対策では間接的な面会や写真、電話連絡等を活用している。	コロナ禍により外部との交流は控えているが、玄関での面会機会を設けたり、なじみの美容院に来てもらったり、以前住んでいた近隣の場所へドライブし、人や場所との関係性が継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶会、活動時等に多くの会話を持つように関わり、利用者同士が円滑になるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着サービスとしてサービス利用期間のみの関わりではなく終了後も継続的な関わりを必要とするご利用者やご家族様には関係を断ち切らない付き合いができるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートや日頃のカンファレンスを活用し、本人とのコミュニケーションを図り傾聴し意向の把握に努めている。又、意思疎通困難な方は家族や関係者から情報を得て本人本位になるように努めている。	利用者と深く関わられるよう寄り添う時間を増やし、本人の希望や意向を把握するほか、必要時、家族等に情報を得ている。それらを全職員で共有し、本人本位のケアができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり、その人独自の生活や歴史やライフスタイル、個性や価値観などをご家族や関係者などから聞き取りを行いこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し生活リズムを把握し、身体、精神面にも視点を置き、できなくなった事、できる事に注目し、一人ひとりの生活の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に観察している状況において変化や低下などの状態を家族・関係者と話し合い、3ヶ月毎のモニタリングを実施し職員全員で意見交換を行ない現状に即した介護計画を作成している。	担当者やケアマネジャーを中心に他職員から利用者の状況や意見を聞き取り、モニタリングを行っており、それをもとに介護計画を作成し、家族に要望の聞き取りや計画の説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて日々の様子やケアの実践・結果気づきや工夫を記入し職員間で共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応し個々のサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、運営推進会議やご家族様等から情報を得て民生委員との接点を持ちながら資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にはご家族様同行としているが、ご家族様の希望により、主治医が往診している。状態変化のある時は連絡を取りながら、ご本人及びご家族の希望に沿った支援を行っている。	通院は家族が行っているが、希望により、事業所で受診したり、主治医の往診にて対応している。また、普段より、週1回訪問看護が体調確認を行い、体調変化に応じて、事業所と訪問看護、主治医が連携できる体制を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションの訪問看護師やエリア内の看護師と日頃の健康状態や医療面において連携を取りながら、健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見守るようにしている。また、ご家族とも情報交換しながら回復状況などを報告し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごして頂けるように取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応できるよう各医療機関とも密に連携を図り、対応している。	入居時や状態変化に応じて、重度化や終末期に向けた意向を家族に確認している。また、看取りに関する研修や勉強会の実施や終末期に向け、訪問看護へ常時相談できるよう態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	エリアで地域住民の協力で、消火方法や避難経路の確認等、火災想定で訓練を行ない地域と職員の協力体制を築いている。また、災害発生時に備え飲料水・非常食・備品等準備している。	事業所では各月で、火災や地震に対する訓練を行っており、年2回は、併設事業所や地域の方と共同で総合訓練を実施している。非常食等に関しては、併設事業所で一括して備蓄、管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティング毎に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりに関しても職員間で振り返り、ご利用者の尊厳、個別情報の保護に努めている。	相手を否定せずに寄り添ったケアを重視し、日々の関わりの中で利用者のサインを見逃さないよう職員間で情報共有を行っている。また、内部研修や拠点研修を通じて意識の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者と過ごす時間を通して、ご利用者の希望、関心、思考を見極め、それを基に日常の中でご本人が選びやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながら、過ごして頂いている。その日、その時の気持ちを尊重しできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装、おしゃれを支援している。また、不十分なところや整容の乱れをさりげなく介助するなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にテーブル拭きや食器の片づけ等、一人ひとりできることを自発的に行う環境ができています。食事介助だけでなく、職員も一緒に座り、楽しく食事できるように雰囲気作りに配慮しています。	法人の栄養士が栄養を考えた献立を作成し食事を提供している。配膳や後片付け、簡単な調理、おやつ作りは利用者で行っている。行事の時に献立を提供したり、利用者の希望でバーベキューを行ったりと楽しみながら食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養士が献立を作成し栄養バランスの摂れた食事となっている。毎日の水分補給に努めると共に、必要に応じて摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できるところは自力でやっていただき、その後不完全な部分を職員がケアしている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら、排泄パターンの把握に努め、尿便意のないご利用者も時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	全職員で個々の排せつ状況の把握に努め、自立した排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや乳製品を取り入れ工夫している。また、散歩やラジオ体操、家事活動等、体を動かす機会を適度に設けて自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を拒む利用者に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイなどによって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	入浴日は決まっているが、利用者の体調や気分に合わせて、時間や声かけのタイミング、清拭対応等工夫しながら安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を多く持ち、生活リズムを整えるよう努めている。入眠ができないご利用者様に温かい飲み物を提供する等、気持ち良く眠れるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時はご利用者の名前を声に出し、職員2名で確認している。服薬支援と体調の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮して頂けるように、アセスメントシートを活用してご利用者様の生活歴や楽しみを把握し、気分転換できるよう支援をしている。役割を終えた後には必ず感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や希望に応じて、季節感を感じて頂けるよう、心身の活性化を図るためにも、日常的に園庭や近隣の散歩の支援を行っている。	敷地内に庭園があり、散歩をしたり、花植え、草とり等を行い、季節の移り変わりを感じたり、気分転換を図っている。また、ドライブを行い、いつもと違う風景を見て楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者がお金を持つことの大切さを十分に理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、ご家族様に相談しながらお金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に相談しながら、ご利用者自らが自由に電話を掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井が高く、そこから柔らかい光が差し込み、建物も全体的に木目調の優しい雰囲気となっている。ご利用者様はソファや思い思いの場所でゆったりと過ごされており、居心地よく暮らせる工夫をしている。	共用空間は天井が高く、天窗もあり、開放感のある作りであり、季節ごとに応じた創作物を利用者と職員と一緒に作り飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で他の利用者の方の気配を感じながらも一人で過ごせる居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた日用品が部屋にあることで、ご利用者が居心地よく暮らせるように工夫し配慮している。	備え付けのベッドとタンスはあるが、毛布や衣装ケース、まくらなど使い慣れたものを持参され、写真や創作物を飾ったりして居心地よく過ごせる居室に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体機能に配慮して、浴室やトイレ等に手すりを設置し、安全確保と自立した生活が送れるように工夫している。		